

1 題材名 自己を見つめて

2 目標

- (1) 感情の形や色彩を想像することに興味をもち、成形や彩色を工夫して自分らしい表現を創造し、感じた思いを表現しようとする。
(美術への関心・意欲・態度)
- (2) 感情という主題から想像力を働かせて発想し、自分の思いに合った表現の構想を練ることができる。
(発想や構想の能力)
- (3) 表現意図に応じた材料や用具の生かし方などの基礎的スキルを身に付けて、表現することができる。
(創造的な技能)
- (4) 作者の心境や意図、表現の工夫などを感じ取ったり味わったりすることができる。
(鑑賞の能力)

3 指導に当たって

この題材は、自己の内面を深く見つめ、心に抱いている感情を抽象的に表現することによって自分のよさや価値に気づき、多様な表現や美しさを求めることの楽しさを味わう題材である。人とは違う自分だけの世界を表現することができる格好の題材である。身近なものを見つめ、心の中にある願いや夢、未来のイメージを膨らませ、表現方法を工夫しながら、自分だけの空想の世界を表現できるものである。

子どもの想像性には驚かされることがよくある。大人も昔、子どもであった。確かに想像性が溢れていた時期があった。しかし、体験・経験を重ねていくうちに想像性は常識になり、過去に経験したものの範囲の中で思考を巡らせるようになってきてしまう。中学生はもう大人に近い。けれど、まだまだ想像性に溢れている。その想像性の溢れたこの時期に発想を働かせる学習をして、生徒の想像性をより膨らませるのに適した題材である。

また、中学生になると、自分の回りをはじめとした外の世界への興味が大きくなってくる。しかし、精神的な成長とともに、自己の内面世界は彼らにとって外の世界と同じくらい大きく興味を引く対象となる。自我の意識が強くなり客観性が芽生えるこの時期には特に顕著になる。
(調査人員 34人 平成24年11月6日実施)

Q 1	美術は好きですか。 ・はい・・・12人 ・まあまあ・・・15人 ・いいえ・・・7人
Q 2	絵画は好きですか。 ・はい・・・14人 ・まあまあ・・・10人 ・いいえ・・・10人
Q 3	彫塑は好きですか。 ・はい・・・18人 ・まあまあ・・・11人 ・いいえ・・・6人
Q 4	彫塑は思ったようにできますか。 ・はい・・・9人 ・まあまあ・・・19人 ・いいえ・・・6人
Q 5	想像性を働かせて絵を描いたり何かをつくったりするのは好きですか。 ・はい・・・15人 ・まあまあ・・・15人 ・いいえ・・・4人

アンケートの結果から、2年生のこの時期で美術を「好き」、「まあまあ」と答えた生徒が多いのは、小学校や中学1年生のときに図画工作や美術を楽しく行ってきたからと考えられる。また、絵画よりも彫塑が好きで多い生徒が多いのは、絵画よりも彫塑の方が満足いく作品になることが理由であることが多い。さらに、絵は上手下手が出てしまうので好きになれないと言う。どちらにしても、作品を制作するに当たって大切なのは、上手下手ではなく一生懸命に取り組むこと、そして、その気持ちが作品に表れるということを理解させたい。その上で、自分の精一杯の力で題材に向かわせたい。

そうした中学生にとって、心の中を見つめ、肯定的な視点から自己の世界観を表現するということは大切なことである。また、具体的な対象物や答えになるものがあるのではなく、自分のイメージのままに表せるので、既成概念にとらわれることなく自由に表現することができるようにしたい。そして、形や色彩を工夫することで表現への興味を喚起させ、表現する喜びや成功感を味わわせたい。

4 指導と評価の計画（9時間取扱い） ○は本時

- 第1次 心の世界を想像し、構想を練る・・・1時間
- 第2次 心の世界を立体で表現する・・・7時間

時	目 標	主な評価規準	評価方法
1	構想を練りながら土台をつくる。	・自分の構想を練り、イメージに合わせて土台をつくらうとしている。 (美術への関心・意欲・態度)	観察 作品 ワークシート
2, 3	自分の心の世界を主題に合わせて表現する。	・感情という主題から想像力を働かせて発想し、自分の思いに合った表現の構想を練っている。 (発想や構想の能力)	観察 作品 ワークシート
4, ⑤ 6, 7	想像や感動を大切にしながら、対象を想像しつつ表現を追求する。	・自分の想像や感動を大切にしながら、感情の形を想像しつつ表現を追求し、形をつくったり彩色したりしている。 (創造的な技能)	観察 作品 ワークシート

- 第3次 お互いの作品を鑑賞する・・・1時間

5 本時の学習

(1) 目標

- 自分の思いを大切にしながら想像を広げ、材料や用具を工夫して形をつくったり彩色をしたりすることができる。

(2) 道徳教育との関連

表現活動の場面で自分の想像や感動を表現する活動を通して、道徳の内容1の「主として自分自身に関すること」(2)「自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ」に迫りたい。

(3) 表現力向上のための手立て

お互いの作品を見合う過程において友人の作品のよいところを見付け、それを付箋に書いて表現する活動を通して、表現力の向上を図る。

(4) 準備・資料

粘土、絵の具、学習カード、付箋、参考作品、BGM

(5) 展開

◎は道徳教育の視点からの配慮

学 習 活 動 ・ 内 容	支 援 ・ 指 導 上 の 留 意 点
<p>1 本時の学習課題を確認する。 (全体)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分の想像を大切にしながら、工夫して形をつくったり彩色をしたりしよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参考作品を見せながら、本時の課題がつかめるようにする。 ・ BGMの中で連想できるような助言をして想像を広げさせる。
<p>2 想像や感動を大切にしながら、工夫をして成形、彩色する。(個人)</p> <p>(1) 全体の感じ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土台となる粘土の形 ・ 全体のバランス <p>(2) 彩色のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 強調する彩色部分 ・ 色彩の感じ ・ 形の取り方 <p>(3) 自分の一番表現したかったところを強調するように表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の途中の作品をもう一度よく見て、改善するところはないかを見直す。 ・ 形 ・ 色彩 ・ バランス ・ 強調 ・ 粘土の厚さ ・ 表面の処理 <p>(4) 友人の途中の作品を見て、よいところを探す。(全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友人の工夫しているところを見付け、意見を書いて付箋を貼る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最初の想像をそのまま表現してもよいし、想像したものが変化していてもよいことを助言する。 ・ 彩色をする際の表現方法については、各自の作品を生かす様々な工夫が可能であることを意識させておきたい。 ・ 表現の進度は一人一人違ってくると思われるので、一人一人の進み具合に合わせて、粘土のバランス、表面の処理の仕方などを個別に支援する。 ・ どんな感情を表すのか、自分のイメージを大切にさせたい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◎ 創造的な技能 (観察, 作品, ワークシート)</p> <p>< B > 自分の思いを大切にしながら想像を広げ、材料や用具を工夫して形をつくったり彩色をしたりしている。</p> <p>< A > 自分の思いを大切にしながら想像を広げ、材料や用具を工夫し、新たな表現方法を活用して形をつくったり彩色をしたりしている。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対象から感じた思いの質、生徒各自の性格によって、表現の有り様が多様性をもつことが予想される。そうした生徒の表現の多様性を配慮し、それぞれの生徒に見合った指導を心掛ける。 ・ つまづいている生徒には、粘土のつけ方、表面の処理の仕方などの技能面の助言を個別にし、再度自分のイメージを思い出させ成形や彩色に取り組ませる。(Cの生徒への手立て) ・ 生徒同士が自由に相互鑑賞できるような雰囲気大切に、意欲を喚起したい。工夫した表現はこのどんなところを感じられるか、自分の作品や友人の作品を鑑賞させながら、制作させる。
<p>3 本時の学習を振り返り、次時の学習について確認する。(個人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習カードに表現活動の中で気付いたことや感じたことを自分の言葉で記入させ、今後の学習に生かすことができるようにする。